

次年度に向けた改善方策

- ① 数値目標は、下記項目を設定する。
 - 面接、校内研修により授業内容を工夫改善し、生徒が理解しやすい授業にする。
「授業内容はよく理解できる」という生徒の割合 75%以上を目指す。
 - 全教員と外部指導員で部活動等を充実させ生徒の個性の伸長を図り、充実感を更に高める。
「部活動は充実している」という生徒の割合 75%以上を目指す。
 - 「学び舎」と地域の連携活動をより充実させ、地域と共に育てる教育を推進する。
「地域の活動や行事によく協力してくれる」という地域の割合 75%以上を目指す。
- ② 生徒の「授業内容がよくわかる」の高評価を維持しつつ、保護者の「子供たちにとって分かりやすい授業が行われている」の評価も向上させていくようとする。
 - ・授業改善を図り、基礎的学力の定着は確実に行い、さらに生徒の印象に残る授業などを多く取り入れていくようにしていく。
 - ・授業参観や授業公開週間の保護者参観者数を増加させ、保護者にじかに授業を見てもらい、学校評価保護者アンケート項目の「子供たちにとって分かりやすい授業が行われている」の「わからない」とする割合を減少させていく。
- ③ 生徒・保護者ともに部活動が充実しているという割合をさらに向上させていく
 - ・部活動は生徒の健全育成で大きな役割を果たしている。その中で部活動を通して生徒の満足感・自己肯定感・自己有用感を味わわせていく。
 - ・部活動をやめた生徒に対しては、継続しなくとも途中から安心して入れる文化部の部活動等の広報活動を行い、部活動加入率を増加させていく。
- ④ 学校からの情報発信機能の充実を図る。
 - ・学校便りや、学年便りによる発信に対してはかなりの高い評価を得ており、今後も継続しさらに内容を充実させていく。
 - ・ホームページの全体構成の見直しを図り、より見やすい画面配置等にできるように改善を図っていく。
 - ・各部活動の活躍状況を今後も、できるだけ早くホームページに記載していく。
 - ・ホームページとして地域・保護者の方々が知りたい内容は何か、ニーズに応じて改善を行っていく。

前年度の改善方策について実行した改善結果

- ① 数値目標は、同じ項目に設定した。
 - 内容・実施策等を更に検討し、充実を図ってきた。3項目とも目標値をほぼ上回った。
 - ・授業改善を推進し全体で肯定的評価が82%となり、昨年度より高評価を得た。
 - ・部活動の活動の充実を推進し、部活満足度はやや減少し74%で目標値とほぼ同じ値となった。
 - ・地域からの評価は、肯定的評価が84%(1ポイント増)と昨年度とほぼ同じ高い評価を得た。
- ② 生徒一人一人が自己肯定感・有用感を持つよう主体的に活動する機会を計画的に設定する。
 - ・行事等では生徒会が中心となって行う行事や各学年では学級委員、時実行委員、合唱コンクールの指揮者・パートリーダーなど主体的に生徒が活動し、やり遂げた満足感とともに自己有用感・自己肯定感を持つきっかけ作りを多く設定できた。
 - ・一人一人の基礎学力の確実な定着を図るように授業改善を行い、生徒の授業がよくわかるという割合が80%を超える高評価となった。
- ③ キャリア教育としての進路指導の充実を図り、生徒・保護者の意識を高める。
 - ・進路指導の3年間を見通した、全体計画、学年ごとの目標等を保護者会でプリントで配布するとともにていねいに説明を行い、キャリア教育の取り組みとして周知してきた。
 - ・3年の進学指導については、学年便りを通して保護者への様々な内容をわざわざ知らせ、保護者が知りたい内容を増やしていくように改善を図った。
- ④ 学校からの情報発信機能のさらなる充実を図る。
 - ・ホームページ全体構成の見直しをがなかなかできなかった。
 - ・個人情報に配慮しながら各部活動の活躍状況をホームページに記載した。
 - ・システムの理解不足で食材産地更新と通常更新とのすみ分けがなかなかできない状況である。
 - ・ホームページは地域の方の評価は高いが、保護者のニーズには応えきれていない状況である。